

十七歳の少年がバイクの事故で逝った。早朝のツーリング中の出来事だった。母親と兄は信者。

通夜は葬祭で、葬儀ミサと告別式は教会で執り行われた。母親は息子の亡きがらの前で事故の相手と会った。車を運転していたのは十八歳の少女だった。母親は、しきりに「ごめんね」と言う少女の肩を黙って抱きしめていた▼通夜と葬儀を控えて、母親は神父に頼んだ。「この祈りの時が、息子の最後の仕事になりま

す。たくさんの方が祈りに来られます。皆さんに神の救いのメッセージを伝えてください。相手の女の子も家族も救ってく

## 地の塩

ださい」。通夜に訪れた少女を抱きかかえるようにして母親はひつぎのところまで行き、息子の顔を見ながら一緒に祈りを

唱えた。息子が好きでよく唱えていたアシジの聖フランシスコの「平和を求めぬ祈り」。母親はその祈りの言葉を一節ずつ繰り返しながら少女と一緒に唱えていた。告別式の時、献花のために近づいてきた少女の肩を抱き寄せた▼母親は、信仰の恵みを頂いていて、つくづく良かった、と言う。復活の信仰がなかったらこの悲しみを乗り越えることはできない。息子は死をもって神の愛を伝えるからである。その死と出会った人たちに、人はなぜ生まれ、生き、そして死ぬのかという人生最大の問いを突きつけ、そしてその死に向き合つ者に救いの福音への道を準備するからである。(Y)